

---

deep red a hood 『ショートストーリー その2』

チラリズム

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

deep red a hood 『ショートストーリー』 その  
2

### 【Nコード】

N1497F

### 【作者名】

チラリズム

### 【あらすじ】

中世の時代で、戦士となった不幸な少女クーデルカと魔女ローズマリーの物語。

**（前書き）**

短編シリーズ第2弾です。

女の子を主人公にした作品は作りやすいです

時は中世。

数々の派閥が生まれ、数々の戦争が起こる。  
歴史に残る出来事は、ほんの百分の一程度。  
そんな数ある戦争の中で、戦士として国から選ばれた不運な一人の  
少女クーデルカ。

来るフォーマス森林地帯中央戦争前夜。

ダイヤのごとく散らばり輝く星空の下、彼女は崖の上に聳え立つ一  
本の樹木にもたれていた。

その腰には古びた短剣。ボサボサの金色の髪を整えながら崖の下に  
いる仲間のキャンプトを見下ろしている。

「この樹木にはリンゴの実が生ってるん？」

赤い髪をなびかせる一人の女性が気配を感じさせずにクーデルカの  
隣に腰掛けて言った。

見た目ではクーデルカと変わらないくらいの年頃。  
あまりに自然に接して来たその女性にクーデルカの警戒心は削がれ  
ていた。

キョトンとした顔でクーデルカは答える。

「ごめんなさい。木のことはよく分からないの」

「ええよ。別にリンゴは好物ちゃうし」

そう言つて彼女は髪を掻き分けてニコつと笑つた。

クーデルカはキラキラと光る彼女の装飾品に嫌でも目を奪われる。

「アナタは誰？ 耳がとがつているからエルフかしら？ それともうつすらと牙があるから吸血鬼？」

「ウチは恐怖の魔女ローズマリーや。怖がらんでも食べたりせえへんから安心し〜」

「クスツ……変な話し方」

クーデルカは妙な形と不気味に光る装飾品や魔女であることよりも、その魔女の話し方の可笑しさに小さく握った手を口にあてて少し笑つた。

しかしすぐにうつ向いて、ローズマリーから目を反らす。

「今から戦争？」

「うん」

「戦争は嫌い？」

「うん……魔女さんは？」

「ウチは分かん。考えたこともないわ」

ローズマリーは立ち上がり、服に付いた土や草をはらうと空を見上げて目を細める。

「ただ、ウチは寿命が長いから……沢山の戦争を見てきた。戦いに勝つ度に富と名声を築き上げた王達はよくやったと兵士達を誉め称え、また新たな戦争へと送り込む。ウチからみたらそれは少々哀れに思えてくる時があるくらいかな」

「私は別に誉められるためにココにいるワケではないのに」

「王にとって兵士達はチェス盤の駒でしかない、人間としては見てくれんよ……魔法でも覚えれば話は別やろうけどな」

「私……孤児達と暮らしていたの、戦争によって国がどうなるかとかはどうでもいいの。ただ静かに暮らさせてもらえればそれでいいの」

「なら、やるべきことは一つしかないな」

再びキョトンとした顔で、クーデルカはローズマリーを見上げた。  
ローズマリーは北の森を指差しながら言った。

「凶暴な魔物フルウが住み着くあの森を抜ける……その先にはアンタの幸せがあるハズや」

「本当に？」

「抜ければの話やで、フルウは夜やなくて朝に行動する……それまでに森を抜ければ良い。今から始まる戦争よりかは生きる可能性はあるハズやで」

それを聞いたクーデルカは唇を噛み締めて立ち上がり。ローズマリーに深々と頭を下げると、短剣を片手に森へと向かう。  
一度振り返りローズマリーに言った。

「ありがとう……私の‘女神様’」

「ウチは魔女やっちゅーねん」

それから一度も振り返らずにクーデルカは森の中へと進んでいった。

クーデルカのいた隊が戦争で敗北したかは定かでは無いが、それから数年後。ある小さな町の孤児院で、魔女に祈りを捧げる少女の噂が歴史の片隅に記憶された。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1497f/>

---

deep red a hood 『ショートストーリー その2』

2010年11月6日01時18分発行